



viscount

Canticus III



Owner's Manual
Bedienungsanleitung

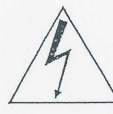
はじめに

このたびは、ヴァイカウントクラシックオルガン、**カントイクス III** をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。**カントイクス III** は、伝統的なパイプオルガンの魅力を最新の電子テクノロジーによってあますところなく再現したクラシックオルガンです。**カントイクス III** の多彩な機能をスムーズに使いこなし、オルガン演奏を心ゆくまでお楽しみいただくために、ぜひこの取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も、ご不明点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

※この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。

安全上のご注意…ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をお読みください。

	注 意	
感電のおそれがあります。キャビネットを開けないでください。		
警告！感電の危険を避けるため： パネルやカバーは取り外さないでください 本製品を雨または湿気にさらさないでください 本製品内部につきまして、お客様は修理・交換なさらさないでください。		
修理・点検につきましては販売店にご相談ください		

	本製品内部には絶縁されていない「危険な電圧」部分が存在し、感電のおそれがあるため、お客様への注意を喚起するため本記号を表示しています。
--	---

「火災、感電のおそれ、あるいは人体への危害に関する注意事項」

警告：本製品のご使用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 1) 本製品を使用する前に取扱説明書をよくお読みください。
- 2) お子様の近くで使用する場合には、ケガ防止のため十分な注意を払ってください。
- 3) 本製品は水回りでは使用しないでください。例えば浴槽、洗面台、台所の流し付近、濡れた床の上、あるいはプールの近く、その他これに類する場所では使用しないでください。
- 4) 本製品は、単独もしくはアンプ、ヘッドホン、スピーカーと組み合わせて使用した場合、過大な音量により聴力障害を引き起こすおそれがあります。過大な音量、または不快感を招くような音量での長時間の使用は避けてください。
- 5) 本製品はラジエーター、熱器具、その他熱を発生する製品から離して設置してください。
- 6) 長時間ご使用にならない場合には、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 7) 本体に物を落としたり、液体が流れ込まないように十分注意を払ってください。
- 8) 以下の場合、サービス担当者が本製品の修理・点検を行います。
 - a. 電源コードまたはプラグが破損した場合
 - b. 製品に物が落ちたり、液体が流れ込んだ場合
 - c. 製品が雨にさらされた場合
 - d. 製品が正常に作動していない、あるいは演奏状態に著しい変化が生じた場合
 - e. 製品を落としたり外装が破損した場合

注意!

■ リチウム電池の警告：本製品にはリチウム電池が使われています。電池を間違えて取り替えると爆発の危険があります。電池交換の場合は現在使用のものと同等のものをご使用下さい。正しい極性でご使用下さい。使用済み電池は、電池メーカーの指示にしたがって処分してください。

■ 本取扱説明書に記載された情報は、商品の仕様変更にともない、予告なしに変更される場合もございます。

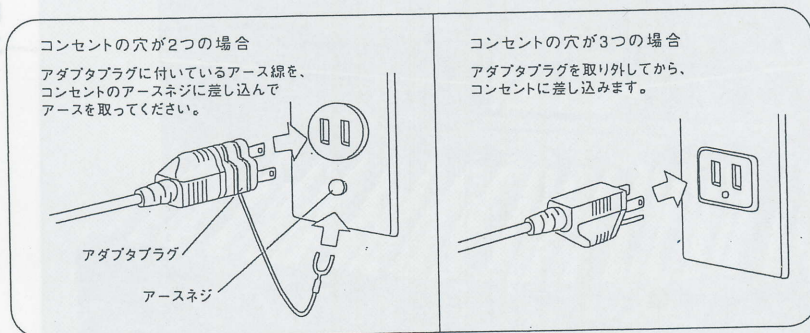
あらかじめご了承ください。

目次

パネル図	P 4
第1章 左側パネルのコントローラー	P 5
第2章 中央パネルのコントローラー	P 6
第3章 右側パネルのコントローラー	P 7
第4章 手鍵盤部パネルのコントローラー	P 9
第5章 ペダルおよびピストン部のコントローラー	P10
第6章 アンダーパネルのコントローラーと接続端子	P10
第7章 リセットとローカルオフ	P13
資料 MIDIインプリメンテーションチャート	P15

安全上のご注意 (追加)

- 1) 十分な換気の為、機器は壁から5 cm以上離して設置して下さい。
- 2) 機器設置の際、換気穴を塞がないようご注意ください。
- 3) 機器上に裸火(とうそく等)を置かないで下さい。
- 4) 機器上に水の入った花瓶等を置かないで下さい。
- 5) 機器は電源コンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くように使用して下さい。
- 6) アース接続は、必ず電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。又、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを主電源から切り離してから行って下さい。



CANTICUS III

カンティクスIII

MIDI

カプラー

A.Pボタンとボイスハレーション

第一手鍵盤部の
コントローラー

第二手鍵盤部の
コントローラー

足鍵盤部の
コントローラー

トランスポーター
テンペラメント
トレミュラント
メモリーバンク

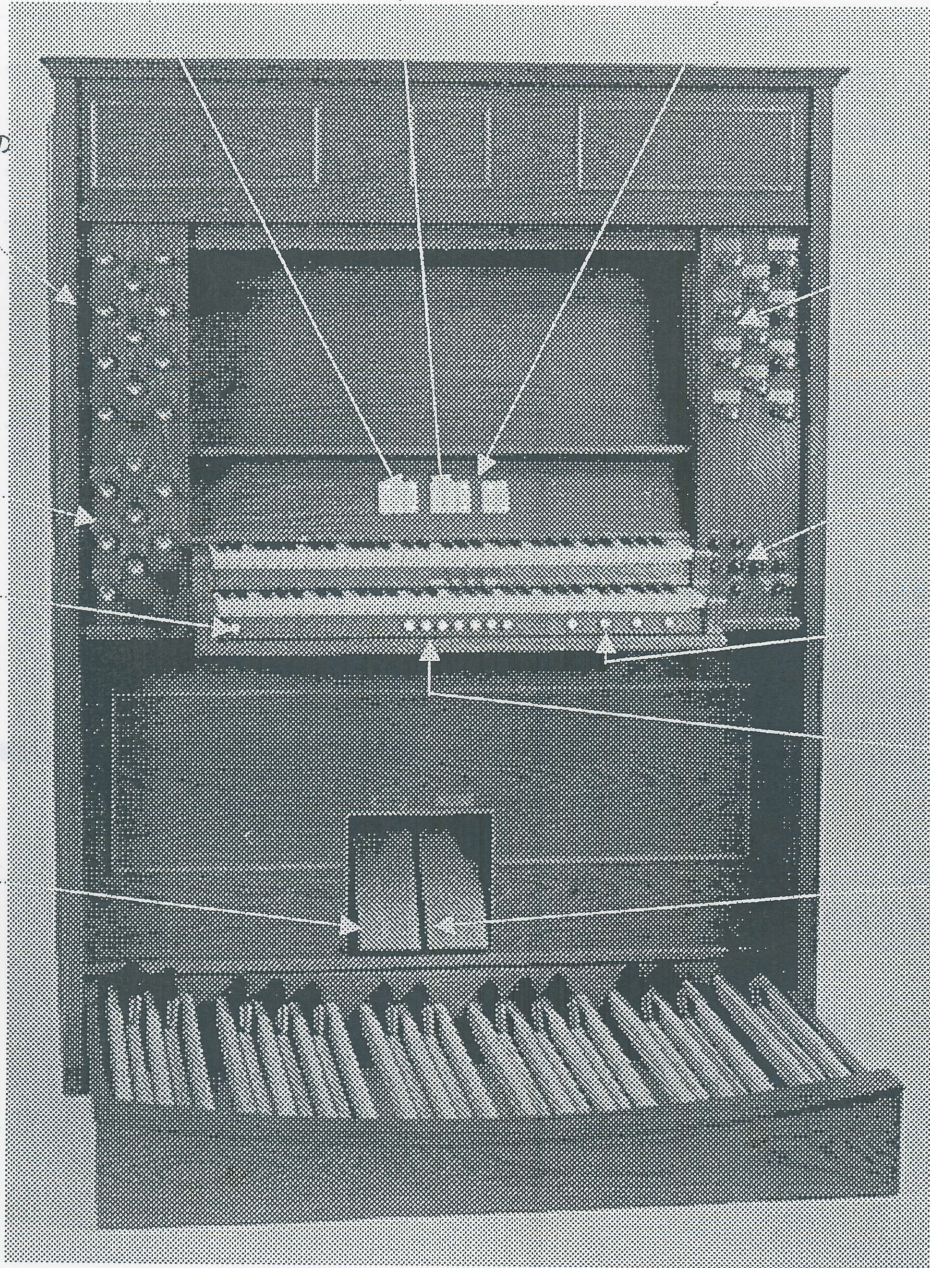
Sボタン

ENCボタン
Chime
Tutti
キャンセル

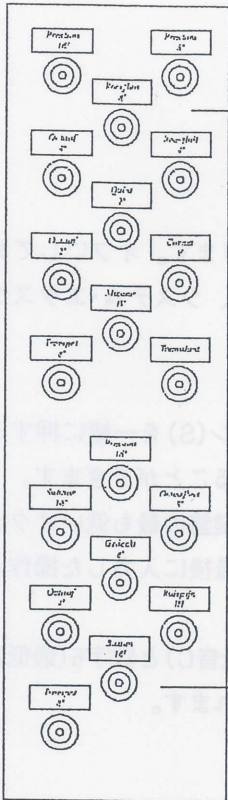
Man.I, Ped
エクスプレッション
ペダル

ジェネラルメモリー

Man.II
エクスプレッションペダル



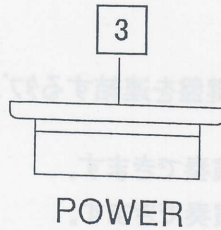
1. 左パネルのコントローラ



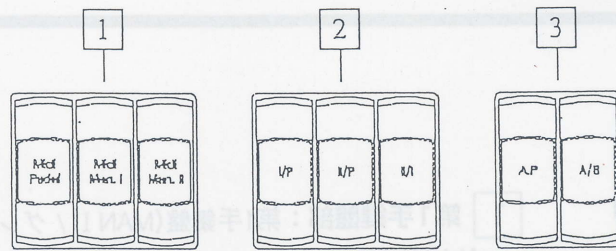
1 第1手鍵盤部：第1手鍵盤(MANI / グレート)のストップ(音栓)とトレミュラントがあります。このストップを使って、第1手鍵盤のレジストレーションを作ります。

2 足鍵盤部：足鍵盤のストップ(音栓)があります。このストップを使って、足鍵盤のレジストレーションを作ります。

3 オン・オフ スイッチ： オン・オフスイッチです。アンダーパネル左側(鍵盤棚下)についています。(11ページ参照)



2. センターパネルのコントローラー



- 1 さらにここには、MIDIボタン(第6章25項「MIDIプログラムボタン」を参照ください)もあります。オフにしておけば、MIDIノートデータは送信されません。プログラムチェンジ、コントロールチェンジ、システム・エクスクルーシブ等のメッセージの送受信は常にオンです。

- ・ MIDIチャンネル・プログラム機能は、MIDIボタンと第1手鍵盤の下にあるセット・ボタン(S)と一緒に押すことで作動します。MIDIボタンが点滅を開始すれば、希望するMIDIチャンネル番号を入力することができます。
- ・ チャンネル番号は、各番号に対応した鍵盤(エンター・キー)を押して入力します。第2手鍵盤の最も低いオクターブのCからAまでのキーが0~9に対応しています。また次のCは、クリア機能を持ち、最後に入力した操作がキャンセルされます。(第4章14項「エンター・キー」を参照ください)
- ・ 入力したい番号が一桁の場合、たとえばチャンネル6と入力したい場合には、数字0(最低音C)と数字6(最低音F#)のキーを押す必要があります。2番目の数字が入力されると、チャンネル番号が記憶されます。

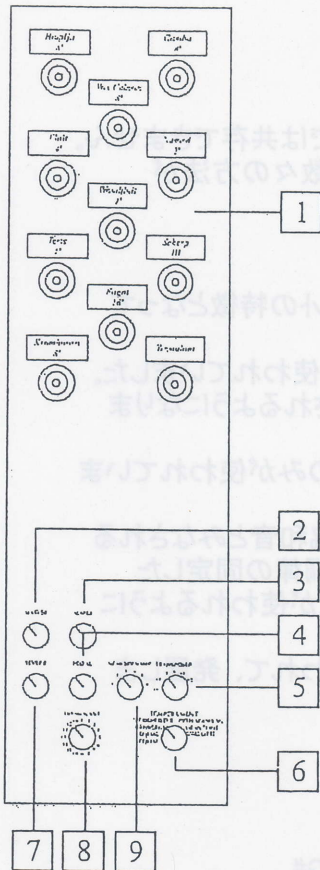
- 2 カプラー: 手鍵盤同士、あるいは手鍵盤とペダル鍵盤を連結するスイッチです。

- カプラー I/P : 第1手鍵盤のボイスをペダル鍵盤でも演奏できます。
- カプラー II/P : 第2手鍵盤のボイスをペダル鍵盤でも演奏できます。
- カプラー I/I : 第2手鍵盤のボイス第1手鍵盤でも演奏できます。

- 3 自動ペダルボタン(A.P.)とボイスバリエーションボタン(A/B)

- ・ 自動ペダルボタン(A.P.): 第1手鍵盤を演奏する際、このA.P.ボタンを押すと、足鍵盤のレジストレーションが鍵盤の最も低い音に加わります(但し足鍵盤数の範囲内)。たとえば、左手でC、E、G(ド、ミ、ソ)と同時に弾くと、最低音C(ド)にだけペダル音のCが加わり、手鍵盤のみの演奏でも足鍵盤のストップの効果を得られます。
- <注意> A.P.ボタン使用時は、ペダル鍵盤は使えません。

3. 右側パネルのコントローラー



1. 第二手鍵盤部: 第二手鍵盤のヴォイス・タブとトレミュラントがあります。
2. マスターボリューム(MASTER): オルガンの全体音量の調節をします。
3. 第一手鍵盤ボリューム(MAN.): 第一手鍵盤部の音量を調節します。
4. 足鍵盤ボリューム(PEDAL): 足鍵盤の音量を調整します。
5. トランスポーター・セレクター: このつまみを回して2半音まで高く、3半音まで低く移調できます。弾きにくい調を演奏する場合や歌の伴奏の際便利です。
6. テンペラメント・セレクター: 7つの異なるテンペラメントを選ぶことができます。
7. リバース・ボリューム(REVERB): このつまみで、リバース(残響)量を調整します。自然反響の少ない小さな室内でも、広い部屋やホールで演奏しているような、豊かな残響効果を得ることができます。
8. トレモロコントロール(TREMULANT): このつまみで、16種類のトレモロを選べます。電圧コントロール および周波数変調。
9. メモリーバンク・セレクター: このつまみを回して、6つのメモリーバンクのうちいずれかを選択し、ジェネラル・メモリーとして設定できます。

テンペラメントについて

自然倍音に基づいた調律方法では、2つの重要な音程が純粋な状態では共存できません。それらの音程とは長3度と完全5度です。その2つの音程を妥協させる数々の方法が数世紀にわたって作り出されてきました。それらの方法をテンペラメント(混ぜ合わせる意味)といいます。

各々のテンペラメントはそれぞれ優先する音程が異なり、それが各テンペラメントの特徴となっています。

古代から15世紀後半までは、完全5度を厳格に保つ、「ピタゴラス音律」が使われていました。その結果、長3度の音程が不快な響きとなり、やがて不協和音とみなされるようになりま

した。当時の音楽はモノフォニーが主流でしたが、ポリフォニーの場合でも完全5度のみが使われていま

した。ルネッサンスになると声楽のポリフォニー音楽が盛んになり、長3度が次第に協和音とみなされるようになりました。そのような風潮に合わせて、オルガンやチェンバロなどの調律の固定した楽器では、「メトニック=ミントーン」と呼ばれる、長3度を優先する調律システムが使われるようになりま

した。ミントーンは16、17世紀から1700年代のはじめにかけて、ヨーロッパで広く使われて、発展しま

した。千テイクスでは6つのテンペラメントを選ぶことができます。

ミントーン 8つの純粋な長3度: Eb-G/F-A/C-E/G-B/D-F#/A-C#/E-G#
 4つの使えない長3度(減4度): B-D#/F#-A#/C#-E#/Ab-C
 ウルフの5度(増5度 強い不協和音): G#-Eb
 不規則な半音階(半音階が独特の性格を持つ)
 このテンペラメントで使える調性: C,D,G,A,Bb 長調と各関係短調

以下のテンペラメントではすべての長調、短調が使用できますが、#やbがつく場合は普通の平均率に比べて、特徴的な響きになります。

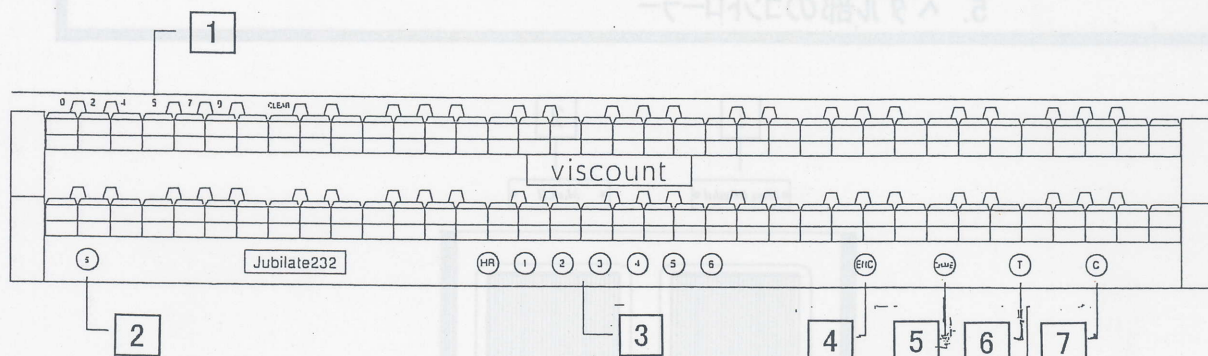
ヴェルクマイスター: オルガニスト、音楽理論学者のアントレアス・ヴェルクマイスターによって考案されたテンペラメントで1600年代の終わりまでのドイツの音楽に適します。

キルンベルガー: J.S.バッハの弟子のヨハン・フィリップ・キルンベルガーの考案になるテンペラメント。バッハとドイツ・バロックの音楽に適します。

ヴァロッティ: イタリアのフランチェスコ・アントニオ・ヴァロッティの考案になるこのテンペラメントは、後にイングランドのトマス・ヤングによって採用されました。17世紀のイタリア音楽に合いますが、同時期のイングランドの音楽にも使えます。

ピタゴラス: 完全5度を厳格に守るテンペラメントで、中世から1400年台迄使われました。その時代の音楽に適します。

第4章 手鍵盤部パネルのコントローラー



1 エンター・キー：第2手鍵盤の左側、0～9の番号とCLEARの文字がついている鍵盤をエンター・キーと呼びます。この部分の鍵盤を押すことで、MIDIチャンネルをプログラムする際のチャンネル番号が入力できます。プログラムチェンジデータ送信の際にも使用します。

2 セット・ボタン(S)：このボタンは、メモリーをセッティングする時に使います。

3 ジェネラル・メモリー(HR; 1-2-3-4-5-6)：作成したレジストレーションは、メモリーに保存できません。ジュビレイト232には、全体のレジストレーションが保存できる6つのジェネラルメモリーがあります。メモリーには、1から6までの数字およびHR(0として扱われる)と記されたボタンがあります。HRプッシュボタンを押せばレジストレーションは前の設定に戻ります。

ジェネラルメモリーのプログラムの手順は以下のとおりです。

- ・まずキャンセル・ボタン(C)を押し、既存のレジストレーションをいったんクリア。その後に希望するレジストレーションを選んで設定変更します。
- ・次に第1手鍵盤の左下にあるセット・ボタン(S)を押してください。ボタンを押しながら、6つあるジェネラルメモリーのナンバーボタンのうち、いずれかを押し、新しい設定内容を保存します。

・ジェネラルメモリーでは、複数の鍵盤のレジストレーションが保存できます。複数の演奏者が同じオルガンを使う場合でも、各演奏者は、違うメモリーバンクに違う番号をつけ、各自の設定を保存することが可能です。

4 エンクローズド・ボタン(ENC)：このボタンを押せば、第2手鍵盤用エクスプレッションペダルを使って、オルガン全体の音量が調節できます。

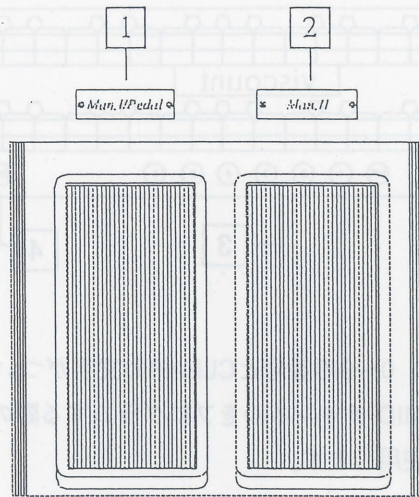
5 チャイム・ボタン(CHIME)：このボタンを押せば、第2手鍵盤上で、他のすべてのレジスターをカットして、チューブラー・ベルの音を出すことができます。

6 トウツティ・ボタン(T)：このボタンを押せば、あらかじめ設定したレジストレーションをすべて作動させることができ、瞬時にフルオルガンの状態(ほとんどのストップが入っている状態)になります。

<注意>トウツティではボイスモジュレーションやトレモロはかかりません。

7 キャンセル・ボタン(C)：このボタンを押せば、オルガンのすべてのレジスターがオフになります。

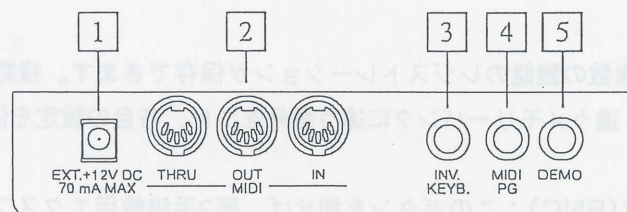
5. ペダル部のコントローラー



1 エクスプレッションペダル：第1手鍵盤と足鍵盤用のエクスプレッションペダルです。(音量を調節します。)

2 第2手鍵盤用エクスプレッションペダル：第2手鍵盤用のエクスプレッションペダルです。第2手鍵盤の音量を調節します。また、エンクローズド・ボタン(ENC)をオンにすれば、このペダルでオルガン全体の音量を調節することもできます。

6. アンダーパネル(鍵盤棚下面)のコントローラーと接続端子



1 EXT + 12V DC コネクター：+12ボルトの電圧が得られる接続端子があります。通常は、リモート(REMOTE)機能として利用し、接続した外部のスピーカーのスイッチを作動させるために使います。

2 MIDIイン-アウトスルー(MIDI IN-OUT-THRU)：オルガンをMIDI音源に接続するためのMIDI接続端子です。

MIDI機能を使用するためには、データをやりとりするためのMIDI機器とその機器を接続するためのMIDIケーブルが必要です。MIDI機器は通常、以下の3つのMIDI接続端子を備えています。

MIDIイン：他のMIDI機器からMIDIデータを受信するための端子。

MIDIアウト：本機から他のMIDI機器へMIDIデータを送信するための端子。

MIDIスルー：MIDI機器を直列接続するために、MIDIイン・ポートで受信したMIDIデータをそのまま送ります。

3 手鍵盤反転ボタン(INV)：このボタンで2つの手鍵盤のレジスターが反転します。第1手鍵盤のレジスターが第2手鍵盤で演奏できます。また第2手鍵盤のレジスターを第1手鍵盤で演奏できます。

4 MIDIプログラムボタン(MIDI PG)：プログラムチェンジデータ送信用ボタンです。MIDIインターフェイスによって外部MIDI機器にプログラムチェンジデータを送信するには、このボタンを押すと同時に、変更したいセクション（足鍵盤、第1手鍵盤あるいは第2手鍵盤）のMIDIボタンを同時に押します（レジスター部に配置。第2章「中央パネルのコントローラー」をご参照ください）。次いで、選んだセクションのMIDIボタンが点滅し始めたら、エンターキーを使って、チャンネルあるいはプログラム番号を入力します。そして第3番目のキーを押す。つまり、3つ目の番号が入力されると、MIDIボタンの点滅が止まり、プログラムチェンジメッセージが送信されます。

<注意>プログラムチェンジメッセージは、エンターキーで3番目のキーを押さないと送信されません。つまり、3つの数字を入力する必要があります。たとえば、プログラムチェンジ番号30を送信したい場合、0-3-0とキーを押さなければなりません。メモリーが呼び出されると、自動的にそこに含まれたプログラムチェンジデータが送出されます。

5 デモ・ボタン(DEMO)：このボタンを押せば、あらかじめオルガン本体にメモリーされている8つのクラシックデモ曲のいずれかを呼び出すことができます。デモ・ボタンを押しながら、第2手鍵盤左上のパネル表示番号1～8の鍵盤を押します。聴きたい番号に対応したデモ曲が選択できます。

ジュビレイト デモ曲

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. ボエルマン | 間奏曲 |
| 2. ヘンデル | 行進曲 ト長調 |
| 3. J.S.バッハ | 小前奏曲とフーガ No.4 へ長調 BWV556 |
| 4. シャルパンティエ | 凱行行進曲(テ・デウムより) |
| 5. J.S.バッハ | 前奏曲とフーガ ホ短調 BWV533 |
| 6. J.S.バッハ | コラール 147「主よ、人の望みのよろこびを」 |
| 7. ワーグナー | 「婚礼の合唱」(ローエン格林より) |
| 8. メンデルスゾーン | 「結婚行進曲」(真夏の夜の夢より) |

■MIDIについて

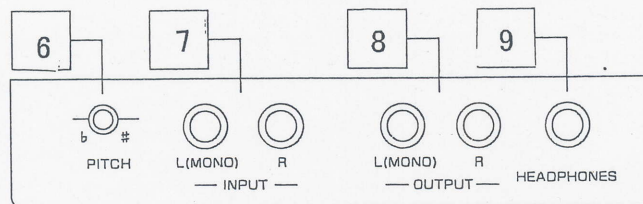
MIDIとはMusical Instrument Digital Interfaceの略です。

MIDI(ミディ)は、電子楽器同士をつないで音楽情報や演奏データを交換するための世界共通の規格。楽器同士の互換性がアップします。たとえばジュビレイト・オルガンの鍵盤で演奏したメロディを別のシンセサイザーで発音させたり、ジュビレイト・オルガンで市販のMIDIデータを再生することができます。

以下、MIDIに関して頻繁に使われる用語を説明します。

- ・MIDIチャンネル：MIDI機器には16チャンネルあります。いろいろなデータのすべてがこれらの16チャンネルを通して別々に送受信されます。結果、最大16台までのMIDI機器を個別にコントロールすることができます。また当然ながら、接続したMIDI機器同士でチャンネルが違えばデータのやりとりはできません。両方のMIDI機器の送信/受信チャンネルは合わせる必要があります。
- ・ノート・オン/オフ：楽器に、どのノート(音符)を、どのくらい長く、どのくらいの強さで弾くかを伝える重要な情報です。
- ・プログラムチェンジ：プログラムの選択に使います。ほとんどの楽器がメモリーしたプログラムを持っており、それぞれがプログラム・ナンバーに対応しています。メモリーナンバーを知っていれば、好みのプログラムを呼び出すことができます。ジュビレイトでは、ジェネラルあるいは専用メモリーに割り振られたナンバーのボタンを押すことで、希望するプログラムが選択できます。
- ・コントロールチェンジ：コントロールチェンジデータは、演奏に表情をつけるために使います。たとえば、音量調整(コントロールチェンジ7番)、拡声ペダル作動(同じく64番)、残響度の送信(同じく91番)、コーラス量の送信(同じく93番)などがあります。
- ・システムメッセージ：MIDIチャンネルとは関係なく、システム全体の調整を目的としたメッセージです。この中には「システム・エクスクルーシブ」、つまり特定の楽器のみが解釈できる指令があります。たとえば、機器のプログラム作成用のバルク・ダンプ(BULK DUMP)などが挙げられます。こうした指令には、通常メモリーエリアに保存されているプログラム作成パラメーターが含まれています。指令は、上述のパラメーターを、ある機器から同じタイプの別の機器へと送るのに使われます。また、外部のメモリーに保存できます(事故等でデータが万が一紛失したり消去してしまった場合に、コンピューターやシンセサイザーから呼び出せます)。

右アンダーパネル



6 全体ピッチ：ここでオルガン全体のピッチを微調整します。納品時のジュビレイトは、A=440Hz(ピッチ調節ノブは中央に配置)に初期設定されています。

7 インпутット L(MONO)-R：オルガン本体のスピーカーで外部音源を鳴らすための接続端子。モノラル音源を入力する場合は、L(MONO)の接続端子を使います。

8 アウトプット L(MONO)-R：アンプを使用せず、直接録音したい時に使用するラインアウト出力端子。この接続端子は一般に、カセットレコーダーなどのアナログ録音機器での録音に使います。モノラルでの録音の場合はL-MONOの接続端子のみ使います。

9 ヘッドホン端子：ステレオヘッドホン用の接続端子。ヘッドホンを接続すると、オルガン本体のスピーカーからは音が出ません。(ホーン・ジャック)

第7章 リセットとローカルオフ

リセット

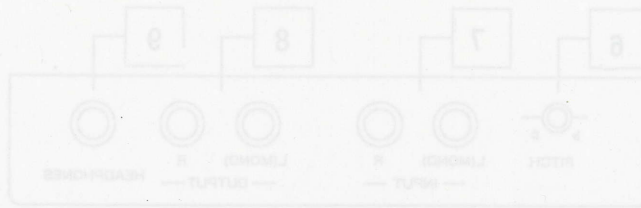
楽器の調子が悪い、あるいは保守点検をご依頼いただく前に、以下のリセット手順を実行してください。

・ジェネラルメモリーのHR,1,2の3つのボタンを押し、オルガンのスイッチを入れます。2、3秒後に押していたHR,1,2のボタンを離します。リセットをかけると、保存していたメモリーはすべて消えます。

ボイスのローカルオフ

カントイクス III が、外部MIDI音源を操作している場合には、複数の音声(voice)を「ローカルオフ(Local off)」モードに切り替える必要が出てくるかもしれません。ある音声はローカルオフ・モードとなり、レジスターが開いていれば、サウンドジェネレーターを動かさなくても(音声はミュート)MIDIコードのみが送出されます。

複数の音声をローカルオフ・モードに設定するには、セット・ボタン(S)を押し、それを押し続けながら、キャンセル・ボタン(C)を押します。すると、作動している音声のランプがすべてつきます。セレクターを使って、ローカルオフを解除するか各音声の通常の操作を作動させることができます。この操作モードではセレクターの灯りが消えている場合、音声発生は働いていません。セット・ボタンとキャンセル・ボタンを押せば再び通常の操作に戻ります。



LITHIUM BATTERY WARNING

CAUTION! This product contains a lithium battery. There is danger of explosion if battery is incorrectly replaced. Replace only with a Maxell CR2032.

Replace only with the correct polarity. Discard used battery according to manufacturer's instruction's.

ADVARSEL! Lithiumbatteri – Eksplosjonsfare. Vade utskifting benyttes kun batteri som anbefalt av apparatfabrikanten. Brukt batteri returneres apparatleverandøren.

ADVARSEL! Lithiumbatteri - Eksplosjonsfare ved feilagtig håndtering. Udsiftning må kun ske med batteri av samme fabrikat og type. Levér det brugte batteri tilbage til leverandøren.

VAROITUS! Paristo voi räjähtää, jos se on virheellisesti asennettu. Vaihda paristo ainoastaan laitevalmistajan suosittelemaan tyyppiin. Hävitä käytetty paristovalmistajan ohjeiden mukaisesti.

WARNING! Explosionsfar vid felaktigt batteribyte. Använd samma batterityp eller en ekvivalent typ som rekommendars av apparatillverkaren. Kassera använt batteri enligt fabrikantens instructions.

The information contained in this manual is subject to change at any time without notification. Some information contained in this manual may also be inaccurate due to undocumented changes in the product or operating system since this version of the manual was completed. The information contained in this version of the owner's manual supercedes all previous version.

FCC RULES

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a **Class B** digital Device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that the interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced Radio/Tv technician for help.

The user is cautioned that any changes or modification not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority operate the equipment.

CANTICUS III

MIDI IMPLEMENTATION CHART

Viscount Canticus III
Church Organ

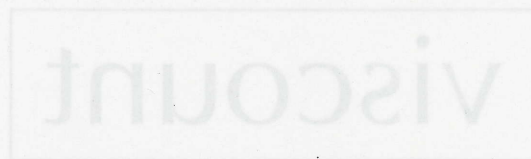
Date: 20/04/04
Version: 1.0

FUNCTION ...		TRANSMITTED	RECOGNIZED	REMARKS
BASIC CHANNEL	DEFAULT CHANGED	1÷3 1÷16	1÷3 1÷16	1: Man.II 3: Pedal 2: Man.I
MODE	Default Messages Altered	Mode 3 X	Mode 3 X	
NOTE NUMBER	True Voice	24÷106	24÷106 24÷106	
VELOCITY	Note ON Note OFF	X X	X X	
AFTER TOUCH	Key's Ch's	X X	X X	
PITCH BENDER		X	X	
CONTROL CHANGE	7 11	O O	O O	Main Volume Expression
PROGRAM CHANGE	True #	0÷127	X X	
SYSTEM EXCLUSIVE		O	O	
SYSTEM COMMON	Song Pos Song Sel Tune	X X X	X X X	
SYSTEM REAL TIME	Clock Commands	X X	X X	
AUX MESSAGES	Local On-Off All note Off Active Sense Reset	X O O X	X O O X	
NOTES:				

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

Mode 2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

O = YES
X = NO



CANTICUS III

MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date: 2010/10/04
Version: 1.0

Viscount Canticus III
Church Organ

FUNCTION	TRANSMITTED	RECOGNIZED	REMARKS
BASIC CHANNEL	1+3 1+18	1+3 1+18	1: Man.II 3: Pedal
MODE	Default Messages Altered	Mode 3 X	
NOTE NUMBER	24+108 True Voice	24+108 24+108	
VELOCITY	Note ON Note OFF	X X	
AFTER TOUCH	Key's Chr's	X X	
PITCH BENDER		X	
CONTROL CHANGE	7 11	O O	Main Volume Expression
PROGRAM CHANGE	True #	X X	
SYSTEM EXCLUSIVE		O	
SYSTEM COMMON	Song Pos Song Sel Tune	X X X	
SYSTEM REAL TIME	Clock Commands	X X	
AUX MESSAGES	Local On-Off All note Off Active Sense Reset	X O O X	

O = YES
X = NO

Mode 2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

